# いとうせいこう×奥泉光

# 文芸漫談

シーズン4@須磨区民センター

## 横溝正史

## 『犬神家の一族』

**2016年**

**12月4日（日）**

**会場：須磨区民センター**
**4階大ホール**

**開場14：00 開演14：30**

**料金 前売1200円当日1500円 友の会1000円**

**出演：いとうせいこう（作家・クリエーター）**
**奥泉光（小説家・近畿大学教授）**

**文芸漫談とは**

いとうせいこうと奥泉光が、小説のおもしろさを
笑いを交えながら伝えたいと漫談形式で始めた
文学トークライブ。
今回は、神戸ゆかりの作家、横溝正史の作品
「犬神家の一族」をテクストとして解説。
金田一耕助が登場して70年。
映画でも有名なこの作品、小説としての
魅力をどう語るのか、乞うご期待！！

**主催・ お問合せ・チケット販売**
**須磨区民センター**
**〒654-0035 神戸市須磨区中島町1-2-3**
**TEL078-735-7641**

（公財）神戸市民文化振興財団は神戸環境マネジメントシステム(KEMS)の認証を取得し、環境保全に努めています。
みんなの知恵（節電やグリーン購入）で環境にやさしい街に

# 『犬神家の一族』

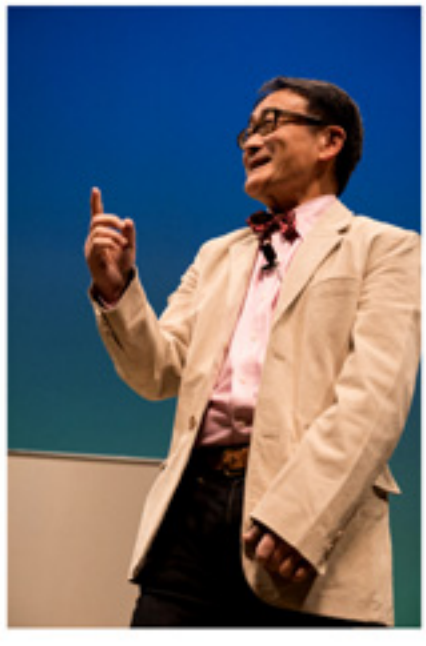
昭和2X年、信州財界の大物、犬神財閥の犬神佐兵衛が那須湖畔の本邸で莫大な財産を残し他界した。
佐兵衛は、生涯にわたって正妻を持たず、母親違いの三人の娘がいた。その娘には一人ずつ息子がおり、互いに反目しあっていた。佐兵衛の遺産相続分与に関する遺言状は、長女松子の息子、佐清（すけきよ）が戦地から復員しての発表となっており、一族は佐清の帰りを待つところとなった。
金田一耕助のもとに、佐兵衛の顧問弁護士である古舘恭三の助手、若林豊一郎から犬神家の調査を依頼する手紙が届く。しかし若林は金田一と会う前に何者かに毒殺されてしまう。古館の依頼で、金田一は犬神家の遺産相続に立ちあうこととなる。
そんな中、復員した佐清が信州に帰ってきた。しかし佐清の顔は戦争で負った大火傷を隠すため、ゴムマスクで覆われていた。犬神家一族が揃ったことで佐兵衛の遺言が古館弁護士、金田一の立ち合いのもと、公開されることとなった。
その内容は、佐兵衛の終世の恩人である野々宮大弐の唯一の血縁、野々宮珠世に佐兵衛の三人の孫の中から配偶者を選ぶことを条件として与えるというものであり、さらに珠世が相続権を失うか、死んだ場合、犬神家の財産は五等分され、五分の一は三人の孫息子に、残り五分の二は佐兵衛の愛人菊乃の息子、青沼静馬に相続するとあり、犬神家の一族に激しい憎しみ合いが起こる。
そして新たな殺人が起き、連続殺人の幕が開く。

## いとうせいこう

1961年、東京生まれ
早稲田大学法学部卒業
作家・クリエーター
88年『ノーライフキング』で
小説家デビュー
2013年『想像ラジオ』で
第35回野間文芸新人賞受賞
小説に『我々の恋愛』
『鼻に挟み撃ち　他三編』など多数
奥泉との文芸漫談をまとめた
『文学の聖典』
『世界文学は面白い。』がある

## 横溝正史

1902年、神戸市生まれ
小説家・推理作家
代表作
『本陣殺人事件』
『獄門島』『八つ墓村』
『悪魔の手毬唄』
1948年
探偵作家クラブ賞長編賞受賞

## 奥泉光

1956年、山形生まれ
国際基督教大学大学院修了
小説家・近畿大学教授
1993年
『石の来歴』110回芥川賞受賞
2009年
『神器-軍艦「橿原」殺人事件』
第62回野間文芸賞受賞
2014年『東京自叙伝』
谷崎潤一郎賞受賞